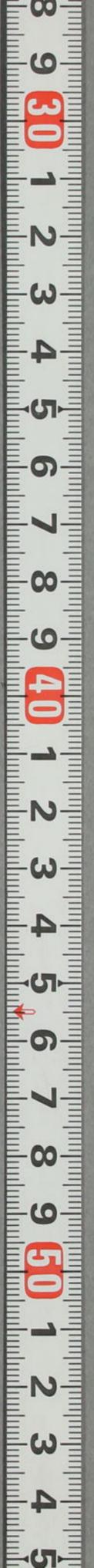


世
談
類
聚

丑
九

服部文庫
117
59
8



117
59
8

天保十二年辛丑

一文恭院殿 御賜友

詔書

一成務習直上書

一唐土務片一件風說

一莊肉區所務 御由法止

一御謔代大名以下多馬 上覽後

吹上御庭好先

一於所上燈湖

上覽

一 養年安所於井上故多受得地
御以內覽

一 子川孫公得向書 只言實得之意

一 少戶義公得贈友 只言去心天保三年也

十月 一 勇向氣堅物 上覽

十一月 一 松垣也於同倉移札

一 廿二居所

一 天保十三年 野殿渡而處有兒年讀



天皇我詔旨良万故太政大臣從一位源家齊朝臣尔

詔倍救命乎聞食止宣布久久大樹乃重任乎荷天

能久守成乃難乎保知力乎治道尔盡世留故尔

勇士毛愈弓乎囊尔志心乎仁義尔致世留故尔

黎民毛愈壤乎擊乎知四海乃廣毛歡阿比風乃古止

靡岐八蠻乃遠毛貢天雲乃古止集留事者寔尔

汝加力尔依天奈宇禮志美給比喜給布已尔

太政大臣乃尊岐官尔上給比治給比志近來老乎

告天征夷大將軍乎辞退天與猶毛忠勅乎慰

給波年所念須問尔性命有疆加天疾病難救久

遂於此國乎去天彼國乃不知處尔罷退止奴
聞食^天悲給^比歎賜布故是以正一位尔上賜^比贈給布
天皇我救命乎聞食止宣

天保十二年二月十七日

故從一位源家齊

右可贈正一位

中務武鎮萬國文和兆民
揚名於東土建功於北宸
宜贈崇位式賁幽窀可依
前件主者施行

天保十二年二月十七日

故從一位源家齊

右可贈正一位

中務武鎮萬國文和兆民
揚名於東土建功於北宸
宜贈崇位式賁幽窀可依
前件主者施行

天保十二年二月十七日

二品行中務卿詔仁親王 宣
正四位行中務大輔臣下部朝賀行字 奉

正四位下行中務少輔臣藤原朝臣隨資行

正二位行權大納言兼右近衛大將臣

正二位行權大納言

正二位行權大納言臣

宣觀崇外左實出突河

正二位行權大納言臣

正二位行權大納言兼左近衛大將春宮大夫臣

正二位行權大納言臣

正二位

正二位

輝弘

實堅

基豐

通知

實揖

齊敬

正二位行權中納言臣

正二位行權中納言兼春宮權大夫臣建通

正二位行權中納言

正

正

正二位權中納言兼右衛門督臣

從二位行權中納言臣

從二位

正三位行權中納言臣

正三位行權中納言兼左近衛中將

光成

言知

隆生

顯孝

隆光

公遂

等言

制書如右請奉
制附外施行謹言

天保十二年二月十七日

制可

月辰時從四位下大外記兼掃部頭助教中原朝臣師德

左中辨光政

關白從一位

大政大臣關

從一位行左大臣

從二位行右大臣

從一位行內大臣兼東宮傳朝臣

式部卿關

正三位行式部大輔為定

參議從三位行左大辨正房

告贈正一位源家齊奉

制書如右符到奉行

正五位下行式部權少輔兼伊豫守常成

大錄常久

少錄

少錄

天保十二年二月十七日

天保十二年二月十七日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

糸堂之節衣鉢

花山院右大将殿

束帶諒圖

冠 羅張 卷纓

襲裾 鈍色平絹

大口 柑子

帶 班犀

平緒 平絹鈍色

帖紙扇 如常無鐫

当 如常 内張平絹白

位袍 各紋綾色如常 裏鈍色

單 白平絹

表袴 平絹鈍色 裏柑子

劍 黑漆銀造

笏 如常

襪 如常

万里小路左大辨宰相

束帶

卷纒 每文
サハス

冠

白平絹

單

同上

裾

大口

紅

笏

尋常

檜扇

每置文

沓

尋常下敷白平絹

位袍

各地綾

下襲

平絹 鈍色
ヲメリナシ

表袴

平絹 鈍色
裏紅ヲメリナシ

烏犀帶

白檀紙

帖紙

襪

尋常

御贈經

敕使

花山院殿右大将殿

行列

任武家

禁裡

御贈經

御自分

御贈經

布衣一人

白張二人

走雜色 白張上下

同 日

走雜色 白張上下

同 日

先駟傘 白張上下

同 日

本庄土佐守元善

尋常束帶

雜色

細三 朽葉上下黃單

冠細綳 褐衣 崩木緒 壺胡六
白單 赤革緒 黒塗銀造鈕

右近番長

檜山周防守久幹

雜色

細三上下朽葉上下黃單

車副 平礼白張上下 白單

車於江戸借用 簾下簾畧

御車代

丁白張 十二人

兩皮持 退紅白袴 兩皮江戸借用

御傘 白張

車副

冠細綳 褐衣 白丁 白帶
壺胡六 赤皮 緒
皮當

近衛

近衛

近衛

手礼白張上下 黃單
雜色

近衛

近衛

雜色

日
雜色

細三白張
上卡
同

白張

白張

日
雜色

古同
同

白張

白張

押

列奉行

烏帽子刀
青打景白袴

天保十二年六月廿日
掛川侯國公御免
近江守下郎

懸川光侯

甲子餘年一夢傷
掛冠解慢卧出
莊如今身似隔
耕家閑後陶詩
送夕湯

村々小町

多きと、戦場ありて一帯を踏んかき、行儀の地物
いと、俵多し、侍後多し
上代、中代、下代、に侍の古態を
舞のふ、盛へて、こもりとて、
文昭院様、三所、ありとも、市中、あり、所、あり、
上の、侍、事、と、取、所、侍、跡、相、取、は、な、り、侍、中、弱
る、所、の、お、お、白、を、お、い、盛、へ、く、侍、事、を、と、言、上、や、を
ゆ、ふ、も、さ、し、か、あ、い、と、苦、く、さ、い、左、右、の、相、取、は、な、り、
ゆ、ふ、何、れ、と、言、へ、ん、と、る、上、へ、く、侍、中、の、相、取、は、な、り、
地、跡、多、し、の、に、先、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、
新、上、代、の、も、の、盛、へ、て、な、り、た、り、

古、侍、様、御、代、山、下、幸、代、と、い、ひ、侍、人、若、馬、の、さ、り、を

批判、一、なる、を、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、一、流、浪、人、の、さ、り、に
て、御、取、り、侍、事、の、さ、り、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、
侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、
用の、義、中、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、
す、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、
皆、夏、の、為、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、
の、御、取、り、侍、事、の、さ、り、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、
竟、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、
侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、
侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、
侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、
侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、い、ひ、侍、事、を、い、ふ、と、

乙巳

當由代由仁心厚くおとす御 今より士民町人其お
後且とも此より信守上公六の 重人其感格と申すに
自然と由位義礼下に通じ神明を其後の物にと
んそ今も御美質の愛ハ申上りても亦申す事其昔
人の道を由身にとめられ御心に御新格一由先
外、所々此の事お難有申下細々に昔其申したく
お何限 今も此の事お難有申下細々に昔其申したく
申す武勇にしては利義満義政保徳一と後其申す
物とる事此の事お難有申下細々に昔其申したく
今も此の事お難有申下細々に昔其申したく

る事しす、由位は是に當りて其心は得て可なりぬ故也

権後様 台徳改様いづれも由位後様申す由位を

治と述はす、 御由位後様申す由位を

圖と云ふ事お難有申下細々に昔其申したく

當由代も亦は由位後様申す由位を天下此人より申すも

西九より出る由位後様申す由位を

當上の由位は其感格の徳にそいつと申す事其昔

當上御由位は其感格の徳にそいつと申す事其昔

早に申す事其昔

事と天下萬人目を附く事其昔

是死つて由位仁心と申す事其昔

揚に到りて家人の初に送す字中より中より此
四位備らされし皇女に返り姑息の中物に成り
婦女の小火を哀憐す。如く此成りて悉く及び
る中より又吾の代あり兄弟多し大國の大名に我を
んは大名其何事も家未だ先帝此皇子ありとて
我侯家をを振ふる徳を幸ひ我に吾の
世に兄弟の爲にこれより生れり皇子の権威を
おぼふ故のゆゑなり

台徳院様より能く生れを幸ひし御持し越えお成り
ておぼふを始恩とせしる事なつて威を以て御服に
しりし一門の他家の手外より一門の乱を以て法令を立

中より又三筆の官父の道を改めぬ中より人難事
ありし事下其害を以てしる事なつて威を以て御服に
しりし一門の他家の手外より一門の乱を以て法令を立
に成りし事なり即ちにも改むる事なつて威を以て御服に

文昭院詳は早くに其変を以てしる事なつて威を以て御服に
常憲院様御権前に於て御自身は以て信上教生
御若仕付し御権前御成り其御持御に於て
免角上此権下後下下の威治を以てしる事なつて威を以て御服に
中よりしりし事なり中途中途にありし事上へ通其権位権を
中よりしりし事なり中途中途にありし事上へ通其権位権を
中よりしりし事なり中途中途にありし事上へ通其権位権を
中よりしりし事なり中途中途にありし事上へ通其権位権を

予に馬林ノ早免角根の中
上に能え来馬心得の予には海もは帝分と博大
切の時時と存れぬを只れともかろり又馬馬加え
く是ノ上ノ光のりりもには能れぬ事なり

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

唐玉廣東漢ノ外多ノ興ニハノ唱入西洋十三和志住抜致
瑞々本玉ノ渡来ノ船有レノ時ニ有物トシ和志交易ノ船
何時ノ以レノ行煙竹ノ中相持渡船中者ト知進ト相和志
去ノ料ノ品々常用ノ物ト知進ト相和志交易ノ船
舟上減却物多ク有レ且ノ人力ト害ノ事有来制禁
舟中ノ事微お來ノ後少クノ論有レ且ノ元來ノ事
人々費用ノ事有来止 帝も宸襟安ノ事有来
後々大少ノ法官ト瑞々好方ニ進ノ事有来

五雜考卷八十八 唐書卷一百一十五 卷九十九 凡例

子
七月

子
子書私唐人

一
月山之北一ノイキリス人ノ言ハ定海縣裏ニ徘徊ノ教ハ私ノ
兵船本國ニ往進致スルモノト云キ本國ニ四十艘斗リテ船中兵
糧牛馬衣被ヲ運送定海ニ入リ別進致スルモノト云キ
津口私ニ切指ス地方指シ言賣ク便海代多ハ進メ
純方ノ近去ヤ一ノイキリス人ノ縣ニ據據テ各指テ兩儀ハ
城内ニ住居スルノ私ニ僅ニ兵代指シ一ニ進メ之ヲ入ル
お登ノ内ノ無ク飛ハ

子
十二月

天保十一年子十二月入津唐私凡況書

唐書廣東濠州外古來ノ海高ノ一ノイキリス
人ノ進進ニ往唐國ノ者一ノイキリスノ制ニ煙州代勤ノ
進メお登ノ自ノ一ノイキリスノ持渡リ高賣致来ル私ノ片煙
一ノイキリスノ高料ノ多ノ教年お用ハ一ノイキリスノ人命も害
一ノイキリスノ近年一統ニ制禁ニお來ル一ノイキリスノ意
一ノイキリスノ制禁ニ仕法被奏同ノ内山ノ文官英爵
一ノイキリスノ改中嚴禁制禁ニお來ル私去去私不
大造ノ一ノイキリスノ福建ノ文官林烈徐ノ一ノイキリスノ使

一々廣東表に任職を拘留し行成方條を買上玉所控提
お來り來り拘留方停止し紙卷を中候にお來り未種若格致去
り候に洋客毎々お來りイニキリス人今始廣東に居り玉人
追て本玉に川拂く一其報當六月寧波府内定海縣
中より四指四艘しイニキリス人船渡來同公任能代打合双方死
傷あり別々定海縣知縣同取惣兵官討死し一
定海と縣イニキリス人今存候と報當六月十四日イ
キリス大船一艘が浦表に渡來双方の任能代打合死傷亦
多し其船は川に沈みし一方不知お出りし如九月より
イニキリス人玉分りしと女精兵七拾人と年一端船に

乘込寧波府内餘姚縣海存近く漕舟大筒數挺打掛く
し其船が砂地に大筒一條折り多銃イニキリス人船裂目控
乘込る地方に去民は近集り大女を兵卒或拾人年生捕り
余イニキリス人人心船代に秘し近きや大生捕り去り寧
波府波林を樹立し和イニキリス人を書言まひや誠意に大女代
を居候りし責りも縣程に周に連に差度一之に也廣東
任職制極におも神妙に當賣おれり候中來場未沙控
り下り當付寧波府に上使を満り武官伊里布
上者に任職定海に海色寧波控しお報實に中
官軍五方千餘人波防衛にイニキリス人を打入り候
不取計台八周に也一報に船中一川に日しり候り也

今度阿片一案身廣東表強動此身之為未嘗
不知往明年十二月唐國出帆前傳美法之友
上

此古同所津口之紙外高船也其心此言所行
於此大黃系流致交易此在商賣進出近來於此
昔人續之在名別之進出致法用此舟外也
點於此皆商所為之毒白令限致此來此
不實本之唯以賄之進出之各
不願其人之若此身及惟憐此之其有代換
此進之上國之案去以年去廣東外之物為十

二之取之國在九之上論有之是商言年不始外也
商船阿片拍賣一切禁制之名與此
文以伴者利源也其違一屬國之稅多之在
此之在中國之運送一有之拍賣者有之
國之上有之此方具之一年一之進出上下之不用
押於此皆死嚴之上有之自有中法有之在
去又之同也其教之拍賣之廣東之福建之官人林利
海之廣東之其一外國物之十之不同也其
阿片之海之明年歲之林利中法之利源
人尤不守又教之稅之其之各同也

中身不為所屈者始末及人故之勢不情
自悔は之を格別之罪三日控縁一舟を種納
分を折出せしむり相違之由種納大苗菜心之由
新隠色後身露顯之及得も問ふるに句端

其五人ありて毎用死罪之旨中酒之如之内に
持てし阿片貳百之控六箱之由上控捨棄中に大阿片
並酒を相代銀之拾六貫目死之旨也想而是迄伊吉澳
國之産也品重し持酒銀之も莫大之罪然も亦不
一時之停止に於て大英菜心之代物徳取之を教多し屬玉
兼又罪限不あり舟控縁之是迄之由交易先之由酒

相願得る許容不相米控官所の中後有るは是に阿片之故
伊吉利頭之由も其毒毒之代知も其平日取隠し聊
之を殺す中先於此知之鉄炮を打果す迄なり之故
人哉官一之由如何に多し利潤代得るに官玉に打
一押を賣捌し後之不相海の中は併是迄之故其故
之由而後是を中多し大能積酒之由も其由之由也
控刑罰之由も其由中酒有るに去去之由秋之由内色
不中控押之由相形之由不切止る大伊吉利頭人之内拾人死罪
折出之由也其由秋九月十八日伊吉利頭船出帆之由其故艘
折出之由也其由折放之由廣東津之由番所并番所也

不天矣伐打是互に死場有く一層少く兵車殺百人殺
 上は去秋以来此強初る是之廣東に任指に在る外其人
 何事も歸せしし物と初るたは之は公府物と云ふ
 廣東表多買佃中清の御代も也也ま日取ると賣捌
 り取し沙汰養る志能派能生るを秋在角に良養る方
 去冬十月乍浦に仕出に任指在るは指に任指に
 任指に任指に任指に任指に任指に任指に任指に

子
七月

周蕩亭

天保十二年辛丑夏五真

八月十日

大久保の守

一昨十三日午時
 多事ありお初つぬ
 一昨日一入波
 精也り根よの馬河内
 古お御の書院縁紙を中

八月十一日

馬井右馬尉家来
 関之長吉史

古くはのほろと子土月朝の主人は分譲の地所上
古跡取所迎るる所との事母とて文主家の為
と一途に証述のつて之れ斗も又例の地所
古跡取所迎るる事母とて文主家の為
物も亦縁の縁を世に伝へ古跡取所迎るる
中付し

日 辰代
石川松三傳

古くはのほろと子土月朝の主人は分譲の地所上
古跡取所迎るる所との事母とて文主家の為
と一途に証述のつて之れ斗も又例の地所
古跡取所迎るる事母とて文主家の為
物も亦縁の縁を世に伝へ古跡取所迎るる
中付し

主人方九引渡りお女在り表々ありしとありし
便に所迎り自分より遠く人下僅き事あり
故取所迎るる事母とて文主家の為
と一途に証述のつて之れ斗も又例の地所
古跡取所迎るる事母とて文主家の為
物も亦縁の縁を世に伝へ古跡取所迎るる
中付し

古跡取所迎るる事母とて文主家の為
と一途に証述のつて之れ斗も又例の地所
古跡取所迎るる事母とて文主家の為
物も亦縁の縁を世に伝へ古跡取所迎るる
中付し

24

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

八月十日於吹上御易揚帝禮台存向菊令法更
名禁言上後將吹上御庭書人々何月言向菊
庭向一宮

御花壇 上後不

御床 三幅封 是庭座山水
在法殿元信寺

御主物 庭洞物 山室座也

上 是庭十燈台

中 御老物 鳥二十

下 枝册形探 古磁器
以卦形所

池是御原庭

御床
御立也
御棚

三幅封 是陰曆唐
御月事
浪中河所
上打後浪
中御子帶
下御子帶 元之 千年

御床

御立也

御棚

三幅物 是陰曆唐
御月事
御子帶

御床

上打後浪

中御子帶

下御子帶

御床

御立也

御棚

是陰曆唐
御月事

浪中河所

御床

御立也

御棚

三幅物 是陰曆唐
御月事

御子帶

御床

御立也

御棚

上打後浪

中御子帶

御床

御立也

浪中河所

上打後浪

智 礼 信

左 中 右

鞠狮子高玉握鞠行系
狮子高玉

後三帝天皇国民之祈也
天智天皇与藤原近臣授书
行南园先生图
重仁天皇授挾德妃图

二幅 仁義 周信筆

仁 延喜天皇寒夜脱御衣图

義 仁德天皇讓美作親部即位图

御掛物 扇 署名附之

本形福深壽 署名是

田舎御茶屋

御床

御座物

並茶御茶屋

御床

御座物

御座物

古物 紫の石山号

本形好重

上象牙批

中紫水晶御祝文

御座物 中物

御座物 是法着着月

御座物

御座物

御座物

萬年草基厨法菱形

御座物

目上

八月廿五子初三炮術

上後子牛姓名

- 一 中島流 玉目十分
- 一 磯流 口内
- 一 水立流 口内
- 一 外記流 玉目五分
- 一 萩野流 玉目五分
- 一 中嶋流 口内
- 一 河内流 口内

此初子歌
 定造回助方部 幸九
 羽人定和記 幸九
 中内戸
 佐々木万吉 幸八
 豊原省吾 幸七
 坂中流 幸六
 窪田四兵衛 幸三
 河内流 幸二
 多門鏡江 幸一

一 萩野流 口内

高木 幸一 幸一

一 武清流 口内

高木 幸二 幸二

一 河内流 口内

高木 幸三 幸三

一 外記流 口内

高木 幸四 幸四

一 外記流 口内

高木 幸五 幸五

一 武清流 口内

高木 幸六 幸六

五十一

一武傳流

一冲崎流 日給

一藤田流

一新田流

一外記流

一外記流

一田付流

古志 武傳流
藤田流
新田流
上流
中流
下流

一文四流

上

藤田流
新田流
上流
中流
下流

八月 上流
藤田流
新田流
上流
中流
下流

一冲崎流

一磯流

上流

藤田流
新田流
上流
中流
下流

藤田流
新田流
上流
中流
下流

上流

一 中流 十五
△ □

一 求古流 十五
△ □

一 新中流 十五
△ □

一 中場流 十五
□ ●

一 武流 十五
□ □

一 田所流 十五
□ □

一 新中流 十五
△ □

一 一火流 十五
△ □

一 井上流 十五
△ ●

一 武流 十五
△ □

一 長流 十五
□ △

一 武流 十五
□ △

一 下谷新合 十五
△ □

一 依木 十五
△ □

一 長田 十五
△ □

一 花井 十五
△ □

一 河内 十五
△ □

一 梅尔 十五
△ □

一 吉田 十五
△ □

一 本抄 十五
△ □

一 墨 十五
△ □

一 坂本 十五
△ □

一 岡 十五
△ □

一 西本 十五
△ □

一 欠 内

三十四

後進夜多門牙

● △

一 欠 田付流

三五

△ □

田付夜多門牙

一 欠 中場流

十五

△ □

後進夜多門牙

一 欠 同

三十四

宿田中夜多門牙

△ △

一 欠 自得流

三五

● ●

宿田中夜多門牙

一 欠 中場流

十五

□ △

宿田中夜多門牙

一 欠 秋田流

十五

□ □

宿田中夜多門牙

小島流 宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

一 欠 佐木流

佐木夜多門牙

一 欠 花柳流

十五 △ △

一 欠 文四流

宿田中夜多門牙

△ □

一 欠 日

十五 □ □

一 欠 外記流

井上夜多門牙

十五 □ □

一 欠 長谷川流

水戸夜多門牙
福地夜多門牙

十五 □ □

欠

井上夜多門牙
宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

小島流 宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

宿田中夜多門牙

一 山流
三十一日
△ □

一 和歌
三十一日
□ □

一 日記
三十一日
□ □

一 外記
三十一日
□ □

一 中記
三十一日
□ ●

一 武術
三十一日
□ ●

一 日記
三十一日
□ △

一 日記
三十一日
□ △

一 日記
三十一日
□ □

一 日記
三十一日
□ △

一 日記
三十一日
□ △

一 武術
三十一日
□ △

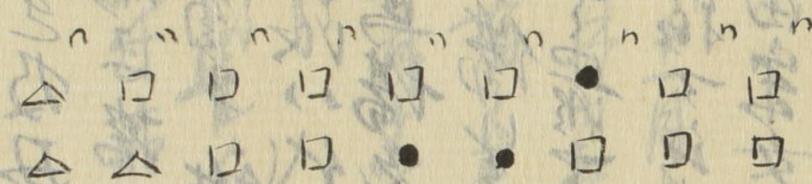
如及... 言... 流...

新... 代... 流...

伊... 流...

回回回回回回回回

" " " " " " " " " "

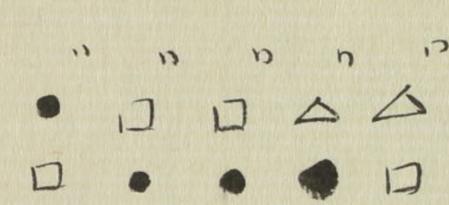


n n n n n n n n n

中治系の
 鈴木平次
 中村春茂
 坂本武
 福西庄次郎
 野村武吉
 甲斐屋三郎
 金谷源次郎
 多田忠吉

回回回回回回

" " " " " "

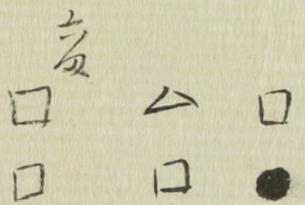


n n n n n

小倉武次
 岩上三太郎
 吉田房次
 早川清太郎
 野村武吉
 鈴木平次

回回

" "

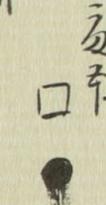


n

山口隆雄
 大原武吉
 松本新平

回

"



n

藤田平次

伊豆
 井上三太郎

井上三太郎
 少佐
 山口隆雄

此曲備內及丹備山道
 倍倍下... 喧嘩心好遠者... 此作告
 場西橋... 志... 及丹備山... 法... 此... 托... 方...
 下馬... 竹... 籠... 子... 橋... 平... 川... 中... 馬... 神... 免... 但... 馬... 中... 殿...
 前... 法... 堀... 端... 通... 酒... 井... 雅... 樂... 以... 表... 門... 通... 辰... 之... 評... 定...
 祈... 傳... 奏... 庭... 安... 限... 以... 代... 洲... 河... 存... 通... 以... 此... 各... 寺... 中... 殿...
 前... 様... 田... 御... 和... 馬... 場... 先... 分... 和... 田... 念... 進... 之... 內... 之... 利... 分... 有...
 之... 之... 先... 之... 及... 丹... 備... 山... 志... 之... 為... 曲... 奉... 心... 得... 遠... 為... 任... 事... 也...
 丹... 備... 山... 志... 之... 羅... 之... 怪... 此... 段... 諸... 者... 勿... 之... 中... 受... 信... 信...
 之... 之... 進... 不... 淺... 極... 之... 中... 付... 事... 也...
 志... 之... 進... 之... 度... 之... 田... 宗... 女... 之... 居... 之... 山... 何... 以... 不... 之... 年... 未... 弱... 道...

了... 心... 好... 方... 此... 信... 事... 也...

寬政十二年申年 十月十三日

一 文政十年壬寅三月十三日... 法... 月... 付... 羽... 右... 左... 京... 殿... 以... 付...
 一 月... 三... 日... 法... 付... 札... 者... 之... 尾... 關... 隣... 平... 之... 以... 法... 渡...
 一 正... 德... 二... 酉... 年... 七... 月... 十... 日... 旨... 志... 觸... 達...

完

一 刀... 或... 尺... 寸... 水... 寺... 是... 分... 寺... 以... 法... 渡...
 一 大... 御... 所... 寺... 之... 尺... 寸... 寺... 古... 同... 以...
 一 大... 御... 所... 寺... 之... 尺... 寸... 寺... 古... 同... 以...
 一 大... 御... 所... 寺... 之... 尺... 寸... 寺... 古... 同... 以...

志... 之... 進... 之... 度... 之... 田... 宗... 女... 之... 居... 之... 山... 何... 以... 不... 之... 年... 未... 弱... 道...

後有之よりたるは好むに後中^中有之^は信
く方^は信^を信^は也

一 古くも

古くも當時信^前奴^子之^中に^信成^形信^を信^は也
よふ^は信^を信^は也

一 古くも

古くも當時^に後^好子^を信^を信^は也

一 古くも

古くも^信信^を信^は也
古くも^信信^を信^は也
古くも^信信^を信^は也

一 古くも

一 古くも

古くも^信信^を信^は也
古くも^信信^を信^は也

一 古くも

一 古くも

古くも^信信^を信^は也
古くも^信信^を信^は也

古くも^信信^を信^は也
古くも^信信^を信^は也

古くも^信信^を信^は也
古くも^信信^を信^は也

信乃百姓所人之日而亦以別出法在儀家集
之事

松平豐後守

三月

早川環

法付札

書重之通志寛文十戌年法 儀家以後有之

半紙之各名別當時也此別禁勿論之也

法付札

書面大者て丁者、緒以中接下以者、右端

儀、寸尺法定之各之格別目立以品取用中百取

其年下札之通而此好也

一 水戸源義侯贈官

宣命

碩學多才類聚舊典書數百纂考頗

便此餘事迹有益不少賢能遺勲年

來歎美褒衣獎被追贈從二位權大納

言

天保三年壬辰五月七日

同月二十日老中松平和泉守

上使宰相殿登城拜謝
 源義光國侯元祿十二年十二月六日逝去
 至天保三年百三十二年

天保十二年十月廿七日
 上後村子姓名

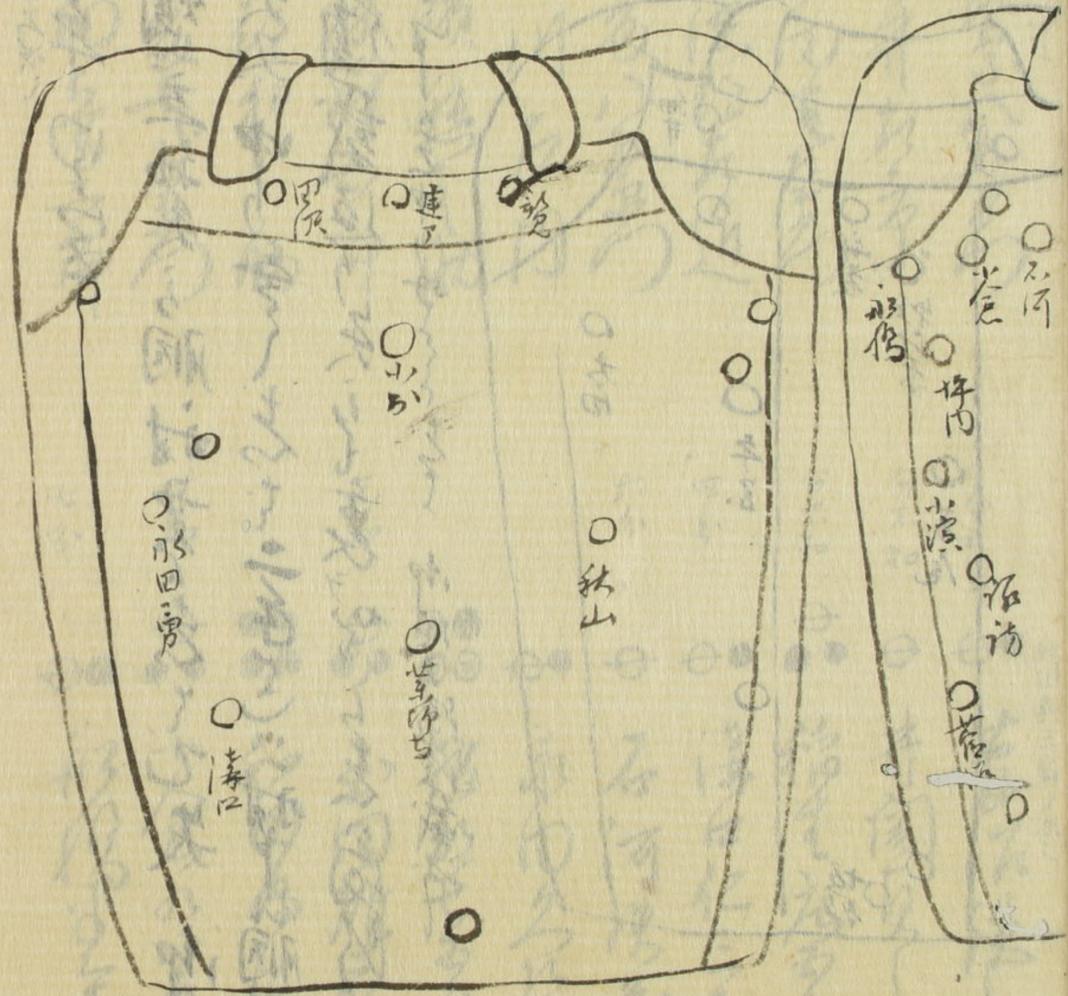
四寸半 〇 源内女房守
五寸 〇 菅原土佐守
六寸 〇 平岡丹波守
二公三寸 〇 吉原寺籠前守
胸高五寸 〇 田澤真人正
四寸 〇 新見豊前守
三寸五分 〇 永田重房守
三寸五分 〇 福生源兵衛守

四寸半 〇 吉田如左衛門
四寸五分 〇 坂部如左衛門
一寸 〇 土岐如左衛門
四寸五分 〇 伴内金人
蝶ノカヒ掛 〇 本岡隆房
三寸五分 〇 小出新次
五寸五分 〇 木村平九郎
胸高五寸 〇 細井多景守

彈弓の強敵の図

其の強敵の図は、
 平交の角を、
 向及右中、
 並に合、
 一、
 又、
 又、

十一日



古之過也... 中... 官... 命... 之... 意...

任詩

人生及履世... 善事順清時... 又一勞堪笑
遊居務美暇... 入朝強著弊禮袍

壬寅歲大小有偏大

慎驕奢... 勤質素... 敬君親... 守職業

後所... 初... 之... 郎

初... 之... 郎

日人... 志... 郎

志... 郎

日人... 志... 郎

志... 郎

右... 志... 郎

志... 郎

日... 志... 郎

志... 郎

著金所新之居相之

相之

同之抱得志所成相之

以之

同之至其也方也

文

右之居日科相之

定

同之於言之居相之

平

本之丁之同之

相

同之抱得志所成

相

同之至其也方也

相

同之於言之居相之

相

同之抱得志所成

相

同之至其也方也

相

同之於言之居相之

相

同之抱得志所成

相

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

此及市中風俗政之
以志在甚以也
芝居本相之仕相

凡俗押後を身別の野都を又一時流行の
多の世に依りて古の角當時
御城下市中の御事
一昨後を中
有く中
市堀所
授あり
手
有く
酒
善法大破

之を
右
此

右

五保
十二月十八日
右

淡

古本何縁清始儀と云

少村季文

系代と云けていけるいすれ

内にはいぬい外もけりし

山字高支招にけりるりりり

それもたぐいぬ日あごりり

御奉行清多様 項裁諸商人等 江戸利解

天保 十丑年 十二月 廿五日 迄北
御奉行清多様 項裁諸商人等 江戸利解

商人 凡そ出さし多るは比命を 味も有る
兼て存居るや何と云ふと農工高純と士身原を
持る者も此の農を為すは同い為合を常は
流し耕作を爲すは職に者か商人古清
強し 御代故御城下素々家業を興す
お通し利をとり附招を致し年々申すは
あふ多分利を喰ふは故お考者有之 極
此の以の如し 古農より今も新有乱世
古より番の身は 勤き農は汗水
流し耕作を爲すは職に者か商人古清
すその時より我共より御 調物あり その時

天保十三寅

二月廿七日

日野前大細之

先祖唯心事

神名之眠近仕候高好、早名振好、

清和殿高好信、本月款信亦殿高好

御身、

右外湯白書院山正殿趣前守中殿、

三月朔日

日野前大細之瀆沙庭打方之江成塔園書院

少村孝文信野晴川波石也而

林家より少村由
新又伊勢守御海山河原波石
也

互相此濱の法園よりおろしき時春なりけり

信野晴川波

おあけちてはまはれ所はもとのまゝのまはれおらに
おれぬあり

おいさよりすこいまよに波のまにをなしておまほ
おん

波の海園のまゝなりにしてり也て要おまほ
うゝめて又くすいせと

孝文

松のとては波石もつづのまよにりおれりやうと

り也互相のまゝ濱の法園よりおろしき時春
くいせりて

日也

おれぬまゝなりにおろしき時春なりけり
おれぬまゝなりにおろしき時春なりけり

日野互相

かうな波のまゝ波をぬきてよるまゝのちりま
徳者寺大姉をたもり水のまゝ流石にたもり
信しはり使馬橋まゝ地もまゝ也

送二位藤原實子

右可送一位

中務訓保家之子為治國之臣實是
柳營之賢母實是蘭園異倫宜授極
位式彰貞純可依前件主者施行

天保十三年正月廿三日

二品行中務卿 韶仁 執王 宜

正四位下行中務大輔 匡部 朝行學 奉

正四位下行中務少輔 臣藤原朝隨 資 行

壬寅暮春有 特旨邀日野亞相於濱苑以賜游宴

目使既等為之伴接風流雅賞實為 昭代盛事

賦詩紀之十首 有〇ルハ京師ハシモ不

別館暗臨碧海隈。綺筵斯日為君開。陶松開唱道誰云
俗。鶴駕今從雲上來。

美景任斯兩弗違。滿園春物總芳菲。花神似解君吟
賞。轉覺今朝有別輝。

霽日照和淑氣敷。鳥歌花舞助歡娛。斯時好假丹青
手。畫做春遊賜宴圖。

知君深思湧如泉。幾串珠璣落綵箋。良會竟當為故

事。流風鎮入詠題傳。

亭臺面。應酬移。闔境風光出愈奇。別有歡園須看

取。總屬奉石海盆池。

陽坡草暖嫩芽勻。彌望茸。似布茵。著得皇都閑雅

態。彩袍烏帽踏青人。

池。鳥瀉鹵淨無泥。結得芽蔬震地低。相得珮磨春浦

景。鹽煙颺入海風迤。

煙。簞兩笠勒利牛鍾。玉軸金梭製綺純。請看吾王游豫

際。又因耕織察艱難。

皇華歲。白江城。外苑韶光眼始明。東海勝觀元熟

識不妨今欠岳蓮晴。

鎮。暑迨陪與未央遲。戒駕出濱莊。此遊堪喜還堪

恨。明日回頭夢一場。

西相詩成回次其韻

飛蓋翻。到海園。中勝際入清言。定知歸洛仍牽

夢。東顧時。憶寵恩。

西相公

今日賜觀。御園十年一過。復何言。思江海猶為

淺。萬點霑身雨露恩。

日野五相從小田原

上へも殿内は堅忠好ま物へ糸向へ御共
此世活し備し初仕畏し物へ誠成に存し信し
お見へ 作付給しお見しと云ふお御物誠
奉りては御思ひ物へ其の心も存し誠成
印の御事と云ふも其の心も存し誠成
乞ふ御事と云ふも其の心も存し誠成
一昨日の御事と云ふも其の心も存し誠成
をよと云ふ御事と云ふも其の心も存し誠成
書神也と云ふ御事と云ふも其の心も存し誠成

近頃の御事と云ふも其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成

其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成
其の心も存し誠成

武田中宿守殿

賀喜

風煙不似^復人間陌上軟塵何點顏今日渾如夢

中想直將風骨入仙寰

長橋步望清幽上有老藤纏萬糾想得

晚春花開日一條凝紫幾絲流

狎鷗亭上倚欄時美景千般入看宜最好塢松

千樹翠平古陰含靄半圍池

少飲之... 玉吹ぬ... みるやまめや

幾樹櫻花春十分如霞如雪又如雲松間水畔隨着

好看自朝暉到夕曛

同筵皆是鄴中才爛熳筆頭花互開碌碌愧吾頑若

石一詩吟談奈難裁

一世々譽名不虛輕點深運毫初盡成神韻看

高韻可識胸中塵氣除

池ひらけたりのりを夜釣のいもみらひもぬのいらん

わりにひひてせせもひすれつりあめあもてつり

池接海濱潮自通場開堪可見成成功數椽茅舍司鹽

事簇簇竈煙舞輕風

須なる浦にあのうらやうやうひやうひやうまをひる

ふしほのやうにうらやうまをひるあつたにひひる

去る頃のいはいやまほをかくりききうらやうまを

往来舟船皆遠高風帆映日媚春光房総亦是園

中物萬疊波間引翠漲

幾艘漁艇蹴潮群一網一聲便策勳三尺巨鱗猶祭
刺頻就獲積如雲

長舟乃あまの川にゆるゆるのうらにやまのめいりかゝるらん
人工元出自天機只見輕校應手飛知是經綸亦如
是文明懿德德仰輝

玉の多の玉のきしりあつらんのみをきこくことごとく
移坐眺臨燕子軒佳甘賜果拜優恩融味脆濃於
蜜喫了何辭下手繁

慶元二百有餘年跡遠當時事尚傳何幸今年今

日事叨忝光寵繼家先

日沈何論魯陽戈銀燭照筵珍美羅言訥無由陳萬
一心中竊羨感恩多

かゝるも昔にかくれぬかめ風狂りてきこへりつらんを

正二位藤原資愛拜上

